KAIRIKU KAIGAKU PARK 舵輪 KAIRIN 1995. 9. 5 vol. 127

酷暑過ぎ、やっと涼風が

冷夏の噂はどこにいったのか、連日突き刺すような暑い夏でしたが、九月に入りやっと涼しい風が吹くようになってきました。皆様お変わりありませんか？

八月六日には華やかな花火で賑わった海王丸も夏休みとともにイルミネーションを消灯し、また、夜間公開も好評のうちに終えることができました。訪問していただいたボランティアの皆さんありがとうございました。

八月には海洋教室も六回実施し、三百三十人余の方が海王丸の生活を体験しました。担当者としては子供たちのパワーに圧倒されながらも、無事夏を乗り切れてほっとしています。

海王丸運動会のご案内

十月十五日の展帆日に運動会を計画しています。昼帆までの昼休みを予定しているのでミニ運動会というべきかもしれませんが、秋空の下みんなで童心にかえって楽しみましょう。多数のご参加をお待ちしています。

前回の展帆日に運動会委員を募集し、数名の方に委員になっていただきました。この委員を中心に運動会の運営を行いたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

種目やチーム分け等については当日プログラムを配布する予定です。

ここで参考までに、練習船での運動会種目をご紹介いたします。

◇椰子の実運び

一チーム六人、各チームに四個ずつの椰子の実をたらいに入れておきます。スタートの合図で椰子の実一個を足に挟みその他の椰子を抱えて折り返し点を回って再びたらいに椰子を戻します。戻した椰子を次の選手が足と手に持って・・・といった展開で最後の選手が椰子をたらいに戻したらゴールになります。

◇狭視界航法

一チーム四人、二人ずつの組で競技します。一人がメガホンを逆にして顔にかぶり、足で円盤を蹴って折り返し点を回ってスタート地点に戻り、次の組にバトンタッチします。もう一人は狭視界のパイロットです。他者の妨害もある中で、パートナーの声を聞き分け自分の円盤をうまく見つけて操船しなければなりません。

当日の種目は未定ですが、こうご期待！

チェッサーからのお知らせ

①海洋講座開催のお知らせ

次回の海洋講座は九月十五日、「大敷網の仕組みと歴史」と題して元氷見市教育長斉藤道保氏に講演していただきます。次回も奮ってご参加ください。

②岩田長峯氏の切り絵とその仕事展が九月六日から十日まで新湊市中央文化会館で展示されます。帆船の切り絵もありますので興味のある方はどうぞ。

ボランティア日記

＝＝＝総帆展帆＝＝＝

晴天に恵まれた展帆でしたが、さすがに盛夏、滴る汗を拭いながらの作業となりました。八月六日は凧の舞う中で展帆を行い、凧が飛んできてマストに引っ掛かるハプニングもありました。暑い中お疲れさまでした。

★データ

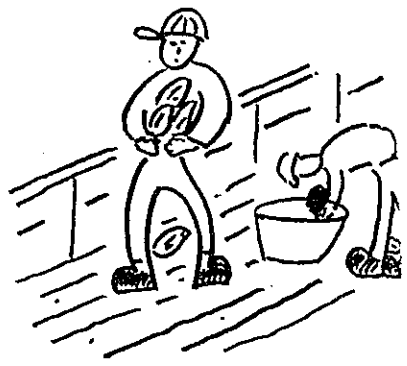
◆月日◇天候◇参加者◇その他

◆8/6◇晴れ◇七八名◇ポートタックシャープアップヤード

◆8/27◇晴れ◇七一名◇ポートタックシャープアップヤード

ロンドンの探訪記その二

阪本義治



皆さん帆船カティーサーク号をご存知ですか？

私はこのカティーサーク号が見たくて去年の春に英国へ行ってきました。

お酒が好きな人ならば、カティーサークといえばスコッチを連想される方が多いでしょう。あのラベルに描かれている帆船の絵がまさしくカティサーク号なのです。

現在カティーサーク号は世界時の基準点であるグリニッジに保存されています。

私はロンドンに滞在していたので、グリニッジ行きのフェリーでテムズ川を下り目的地へ向かいました。ロンドンの船着き場を出て約一時間後、遠くにマストが見えてきます。カティサークまであと少しと思うと胸躍るものがあります。そしていよいよ上陸、約五分も歩くとおよそ90メートルの船体が乾ドックに横たわっています。最初の感想は「なんとなく哀れ」というのが実感でした。確かにクリッパー型といわれるだけあってその船体は海王丸に優るとも劣らないスマートさです。しかし、ヤードにセールはベンディングされておらず、したがってギアーも最小限度のものしか通してありません。外板も所々に錆が出ています。二世紀以上昔の帆船なので当然といえば当然です。しかし、私の心の中には勇敢な帆走場面のカティーサークのイメージしかなかったので、少々がっかりしてしまったのです。

さて、乗船券を三・五ポンド（約五百円）で買い、第二甲板から船内に入りました。第二甲板にはカティーサーク号の写真、歴史などが展示されており、売店（ここではカティーサークグッズが手にはいる）もありました。第三甲板はかつて船倉だったので船首から船尾までの巨大な空間になっています。今は様々な船首像が展示されています。そして、上甲板に上がると船首には水夫達の部屋、船尾には船長、航海士の部屋、サロン等があります。これらの船室は当時のまま保存されており、まさに典型的な船の造りといえるでしょう。船尾楼甲板に出ると舵輪、マグネットコンパスが設置してありました。クォーターデッキに立って目を閉じると当時の当直の様子が目に浮かぶようです。

デッキ上では錆打ちをしている人の姿がみられましたが、発錆箇所があまりに多く手が回らないのが現状のようです。そして、募金箱が設置されておりそこには予算が不足しており十分な整備作業が出来ないと書いてあります。海王丸にきて一年半が経ちますがこのカティーサーク号のことを考えると海王丸は展帆も実施され、整備も良く施され非常に幸せな船であると感じます。

現代の大型帆船の多くはカティーサーク号のようなクリッパー型をモデルにしています。現代の帆船のはしりであり、十九世紀のクリッパー時代華々しき頃の唯一の生き残りであるカティーサーク号がいつまでも保存されることを願って下船しました。

次回はクリッパーシップについてです。

海王丸パークの鳥たち

トンビとカラス ―ゲルンの戦い―

ありふれた名前の鳥ばかりですが、今回はヤード上でのトンビ（鳶）とカラス（烏）の縄張り争いの一幕をお話します。

ヤード上でトンビがよく鳴いているのは皆さんご存じだと思います。八月は特にヤードに居座っていましたが、これはどうも蝉を狙ってのことのようです。

さて、話は六月末頃になります。メインマストのアッパーゲルンに一羽のトンビがとまっていました。するとフォアマストに二羽のカラスがやってきました。しばらく冷戦が続いていたのですがそのうちカラスの一羽がメインのロアゲルンにとまりトンビの威嚇を始めました。トンビはヤードから離れたりとまったりしながら応戦していましたがそのうちもう一羽のカラスがメインに移ってきて二対一の戦いとなりトンビはしぶしぶミズンマストへ。いつもはこれで終わるのですがその日は片方のカラスに執拗に追い回され、マストにとまろうとするともう一羽のカラスにヤードから威嚇されるためトンビは完全に海王丸から追い出されてパークの時計台に寂しくとまっていたのでした。カラスのずる賢い連携プレーにはトンビも歯が立たなかったようです。しかし、さすがのカラスもこの夏の暑さにはかなわなかったらしく、結局のところ八月のマストはトンビの縄張りとなりました。

あとがき

◇九月に入っての、突然の雷雨に驚いています。突然の雷の音に起こされて慌てて窓を閉めることが幾度かありましたが、地元の人から見れば夏の終わりを告げる風物詩の一つなのでしょうか。目まぐるしい天気の変化にも悩まされます。天気の予測がつかず、つい先日もボランティア訓練を中止にしたらしっかりと晴れ、頭を抱えました。

◇先日、おわら風の盆を見てきました。坂の道に灯籠が並び、橙色に照らされた昔ながらの家並みの中を歩くうち、ふとまだ小さかった頃のことを思い出しました。踊りも素晴らしかったが、八尾の町の空気が印象的でした。

◇いよいよ、スポーツの秋、読書の秋、そして食欲の秋の到来です。体調を整えながら四季の恵みを受けましょう。

シエナウインドオーケストラのチケット引換券を同封します。ご利用ください。

DODO